## ● 授業を行うにあたって工夫していること

高校までの数学は受験のための手段としての面が強いが、実際に数学を「使う」ステップに進むにあたって必要な考え方の転換を意識した講義を行っている。数学や統計学に関しては、ただ傍聴するのではなく、実際に手を動かして問題を解くことによる習得が効果的と考えており、講義+演習という形を取っている。毎回の演習問題による実践から、各々がどのような計算式で答えを算出したかを基に理解度を確認し、次回以降の講義の進度の指標にすると同時に、それを評価対象としている。

## ● 学生への要望・アドバイス等

講義において解らない点については、まずは自己解決を試みて欲しい。数学には必ず答えが存在するので、それを自分で見つけ出すよう努力すること、またそのプロセスを大事にすることは他の科目にも繋がる基本的な学習姿勢である。講義に対する予習・復習により、内容理解の消化不良を回避することも効果的である。